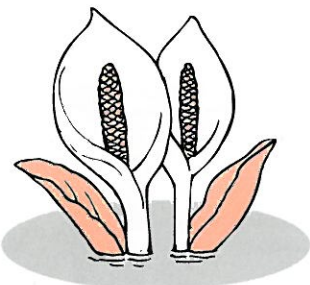




キラリ☆シニアライフ

—中津川の水芭蕉を守る会 代表—

安原 昌佑さん ～盛岡市在住 67歳～



中津川の水芭蕉を守る会の代表の安原昌佑さん。昭和40年代は富士見橋近くの中津川河川敷はきれいに整備され水芭蕉が生育していました。しかし、平成に入り河川敷が汚染され、水芭蕉が激減しました。

そこで、水芭蕉を守りたいという同じ思いの仲間があつまり、平成14年に会が発足。水芭蕉の保護や生育地の保存活動もおこなっており、中学生も活動に加わり世代間交流にも大きな役割を担っています。

安原さんはその他、保護司としても活動され、青少年の更正にも尽力されています。

社会貢献に対する思いは熱いものがあり「機会があれば現代の青少年の更正の現状についてもっと多くの方に話す機会を持ちたいんです」と熱く語られています。

経済不況の中、青少年を取り巻く社会情勢はとても厳しいものがあります。

このような現状の中で懸命に取り組む安原さんの活動が、若者の未来を切り開いていくことにつながっていくことを強く感じました。

(この事業の一部に、岩手県長寿社会振興財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。)



前回夏号でご紹介した演劇同会「虹」様の所在地表示に誤りがありました。下記の通り訂正させていただきます。くとも、お詫び申し上げます。

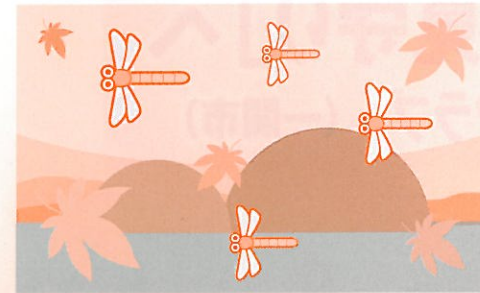
P1、P2 (誤) 盛岡市松園→(正) 盛岡市

あとがき



地域で支えあうこと、人とふれあうことが、今後の社会のあり方のポイントになるんだなあと思感させられました。(滝)

発行／岩手県保健福祉部長寿社会課
〒020-8570 盛岡市内丸10-1
Tel:019-629-5432 Fax:019-629-5439
企画・編集／岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンター
〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1-7-1 アイーナ6階
Tel:019-606-1774 Fax:019-606-1765



ご近所お助け安心サポート

水沢南大鐘寿会

(奥州市)

記憶にも新しい昨年6月の岩手・宮城内陸地震。

いつ起こるともわからない災害・事故へ常に備えが必要であることを先の災害で学ばされました。

奥州市水沢区にある水沢南大鐘寿会(高橋安三郎会長 会員63名)では、このような災害・緊急時に備えるための取り組みを、積極的に行っています。緊急の災害、事故、急病に備えるため地域の高齢者に「ご近所お助け安心サポート3点セット」を配布しています。3点セットとは、「情報連絡携帯カード」…携帯カードに身元、連絡先を記入し、急病で倒れた際身元がわかるもの。「緊急連絡安心カード」…かかりつけの医療機関が記入されていて自宅に保管し、万が一の際、家族が至急対応できるためのもの。「緊急お助けあんしんケース」…災害の避難、入院のために必要な薬、着替えなどが入っているケース。

始めた経緯を民生委員の鈴木かな子さんは「以前交通事故に遭われた方の身元が分からず、大変苦労したことがあったことをきっかけに地元でボランティアを募りこの取り組みを始めた。現在75歳以上の方には3点セットを全員、65歳以上には安心カードを全員配布し皆さんに喜ばれています」と話されています。

村上徳也事務局長は「このような取り組みをはじめ、地域の交流が増えたり、子供が高齢者へ関心を持つことで家族間の交流が増えたという予想しなかった効果まで出てきた。そのような日頃の交流、支え合いがいざという時の頼みの綱になる」と強調しています。

アイデアと日頃の地域間の連携が非常に重要な活動でした。

(この事業の一部に、岩手県長寿社会振興財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。)

～お知らせ～

「高齢者ふれあい・生きがい・支えあいフォーラム」を開催!!

日時 11/19(木) 13:30～16:30

場所 盛岡市市民文化会館(姫神ホール) 盛岡市玉山区市民字鶴塚55

講師 坂巻照氏(社会福祉法人潤沢会理事長 淑徳大学名誉教授)

パネルディスカッション

・盛岡市老人クラブ連合会 ・二戸市社会福祉協議会浄法寺支所

・岩手町豊岡自治振興会 ・NPO法人 第二のわが家

入場無料どなたでも参加できます!

もくじ

●1ページ <特集>
ご近所お助け安心サポート
水沢南大鐘寿会(奥州市)

●2・3ページ<拝啓、がんばっています!>
「高齢者」から「子どもの見守り」へ
一関市老人クラブ連合会
千厩支部老人クラブ(一関市)
広げよう認知症への正しい理解を
認知症にやさしい地域支援の会(陸前高田市)

●4ページ<キラリ☆シニアライフ>
中津川の水芭蕉を守る会
安原 昌佑さん(盛岡市)



〈高齢者に配布されているセット一式〉



〈会で中心的に活動されている皆さん〉



拝啓、がんばっています!

「高齢者」から「子どもの見守り」へ —関市老人クラブ連合会千厩支部老人クラブ（一関市）

全国的にも少子高齢化が進む中、ここ一関市千厩町も例外ではありません。

一関市老人クラブ連合会千厩支部老人クラブ（支部長 佐藤達夫）では「家に閉じこもりがちな高齢者の安否がどうなっているのか気になる」というきっかけで「老人は老人で見守り合おうとお茶ばたき活動」を始めました。「お茶ばたき」とは、お茶を飲みながら、世間話をしようかという意味の方言で、高齢者宅を訪問し、お互いが元気であることを確認する活動です。加藤事務局長にお話を聞きました。

「最初は高齢者の安否確認という目的で始め活動しておりました。その後近年子どもをねらった事件が相次ぎ、自分たちだけの見守りだけではなく、将来を担う孫たちの見守りをやらなければ!と立ち上がったのです」と話されました。現在は、不審者情報は非常に少なくなっているとのこと。

子どもの見守りは、「座っても（手押し車に）できる見守りが特徴」と全国老人クラブの葉に紹介され、老人たちが自分たちなりに、行い易い方法をいろいろ考えて活動している。

学校、警察等からの感謝も受け、ある会員は「子どもたちからは『恥ずかしくて挨拶できないけど、いつも見守ってくれてありがとう』というメッセージを見てやって良かった」と喜んでいました。

世代間の交流が少なくなっている近年、このような形で子どもと高齢者の「ふれあい」が多くの地域で広がることを期待したいものです。

（この事業の一部に、岩手県長寿社会振興財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。）



〈お茶ばたき活動の様子〉



〈子どもたちを見守る老人クラブの皆さん〉



拝啓、がんばっています!

広げよう認知症への正しい理解を 認知症にやさしい地域支援の会（陸前高田市）

知っているようで実は正しく理解されていない認知症。高齢社会が本格化する中、より身近な問題となってきています。つらいのはご本人だけでなく、支えて介護する家族にも心身の負担はとてつらいものがあります。

この認知症に対して取り組む活動をしているのが陸前高田市にある「認知症にやさしい地域支援の会」（菅野不二夫会長）です。

隔月で地域の認知症の方や認知症の方を介護する家族の方などが集まり、交流会を行っています。介護をする者にしか分からない現状、精神的な苦悩など、または良いアイデアを共有しあい共に支えあい、励ましあいながら活動されています。日々家族だけの生活の中では悶々としたり、精神的に追い詰められることもあり、このような場を設けることは大きな心の支えになっています。市外からも交流会にかけつけ、会に対する関心の高さが伺えます。

また、隔月で医師、専門家を招いて認知症に関する研修会も開き、認知症に対する正しい知識、対応を学んでいます。

会長の菅野さんは「認知症の正しい理解には家族だけでなく地域の理解も必要になってくる。社会全体で正しい理解と支え合っていく基盤が必要だ」と強調されています。

「現在は高齢者だけではなく若年性の認知症も増えてきており、その対策も必要となっている」との話もありました。

（この事業の一部に、岩手県長寿社会振興財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。）



〈交流会をされている様子〉



〈若年性認知症の講話をされる様子〉